

Shibuya Upper West Project における工事仮囲いアートプロジェクト始動 ～渋谷区・渋谷区立松濤美術館・Bunkamura と連携し、 “もう一つの渋谷”の記憶と時間を紡ぐ「渋谷松濤ウォールギャラリー」を展開～

東急株式会社
L Catterton Real Estate
株式会社東急百貨店
株式会社東急文化村

東急株式会社、L Catterton Real Estate、株式会社東急百貨店は、共同で設立した渋谷西開発特定目的会社を通じて東急百貨店本店跡地で推進する「Shibuya Upper West Project (渋谷アッパー・ウエスト・プロジェクト)」の工事現場において、仮囲いアートプロジェクト「渋谷松濤ウォールギャラリー」(以下、本プロジェクト)を始動します。

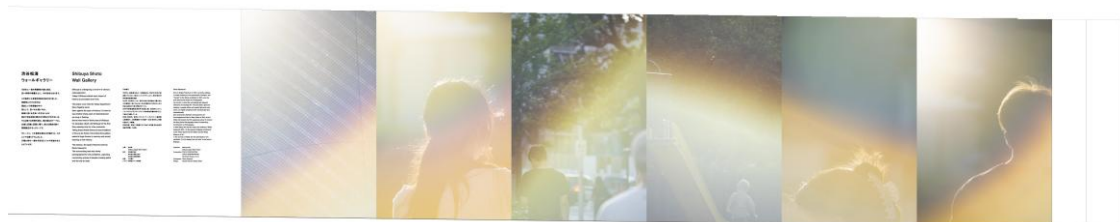
本プロジェクトは、東急百貨店本店跡地から松濤、富ヶ谷、上原、駒場など西側へと広がる「Shibuya Upper Westエリア」が培ってきた豊かな文化的土壌を次世代へ紡いでいくことを目的に、渋谷区とShibuya Upper West Projectが連携し、エリア内に位置するBunkamuraと渋谷区立松濤美術館の協力を受けて推進するものです。

本プロジェクトのテーマは、かつてこの場所にあった東急百貨店本店の記憶、そして未来へと続く再開の歩みが交差する「時間の流れ、積み重ね」です。100年に一度といわれる渋谷の再開の時間軸の中で、松濤に長くお住まいの方から、初めて渋谷を訪れる方まで、多様な人々の時間の流れの交差を表現します。永遠に記憶と記録に残り、新たな歴史と文化を紡ぐ、工事仮囲いを活用した期間限定のギャラリーです。

2026年7月1日(水)から開始の第1弾は、国際的に高い評価を得る写真家・川内倫子氏を起用しました。川内氏は本プロジェクトのために周辺エリアを新しく撮り下ろし、夕暮れ時の一瞬の光の中に浮かび上がる人々の営みや、刻々と姿を変える街並みを繊細に捉えています。道行く人々がふと足を止め、このエリアが持つ静謐な美しさと、積み重なる時間の気配を感じられるような空間を創出します。

また、第1弾は、2026年7月4日(土)から渋谷ヒカリエ内の「ヒカリエホール」にて開催される、Bunkamura ザ・ミュージアムの展覧会『まなざしの奇跡 日本女性写真家の冒険』との連動企画です。渋谷の街全体でさまざまな角度から「写真」を楽しむ機会を提供します。

本プロジェクトを通じて、工事現場の仮囲いを質の高い文化発信拠点へと変え、エリア全体が文化のシンボルとなることを目指します。



南面アート作品(一部)



東面アート作品(一部)

■渋谷松濤ウォールギャラリー第1弾 概要

期間：2026年7月1日(水)～2027年9月30日(木) 予定

場所：Shibuya Upper West Project新築工事仮囲い

主催：渋谷区、Shibuya Upper West Project

協力：東急株式会社、Bunkamura、渋谷区立松濤美術館

写真：川内倫子

デザイン：林琢真デザイン事務所



■“もう一つの渋谷”「Shibuya Upper Westエリア」について

「Shibuya Upper West Project」は、多様な価値観を取り込みながら街づくりが進む渋谷の中で、エネルギーに満ちた渋谷スクランブル交差点を中心とする渋谷駅周辺と東京を代表する高級住宅地・松濤との結節点にあたる唯一無二の場所であり、次々と大型の再開発が進む渋谷駅前とは一線を画した、いわば“もう一つの渋谷”とも呼べるエリアに位置します。

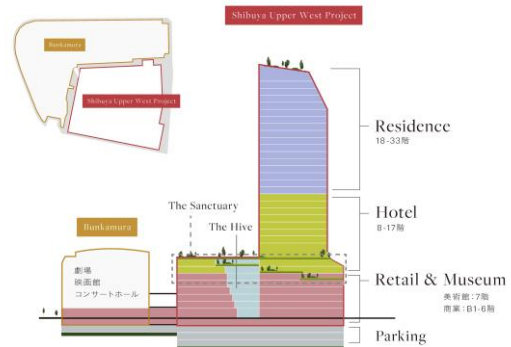
明治時代のはじめ、旧佐賀藩主の鍋島家が茶園を開き、「松濤園」と名付けたことに由来する松濤は、その後、文化人や要人が居を構える住宅街となりました。現在では周辺にBunkamura、渋谷区立松濤美術館、戸栗美術館といった文化施設を擁する文化の集積地となっており、さらにその西には、富ヶ谷、上原、東京大学のキャンパスがある駒場などの洗練された街が広がるなど、人々の“文化的な暮らし”の歴史が脈々と受け継がれてきたエリアと言えます。

■Shibuya Upper West Projectの計画概要

事業主	東急株式会社、L Catterton Real Estate、株式会社東急百貨店
所在地	東京都渋谷区道玄坂二丁目24番1号
用途	リテール、ホテル、レジデンス、ミュージアム など
敷地面積	約13,675㎡ (※Bunkamura含む)
延床面積	約119,000㎡ (※Bunkamura含む)
階数	新築部分：地上34階 地下4階 Bunkamura：地上7階 地下2階
高さ	155.7m
デザイナーキテクト	Snøhetta
エグゼクティブアーキテクト	株式会社日建設計
建築施工者	大林・東急・西武建設共同企業体
竣工	2029年度(予定)



▲外観イメージ



▲用途配置図

■川内倫子氏プロフィール

1972年、滋賀県生まれ、千葉県在住。2001年刊行の写真集『うたたね』『花火』(リトルモア)により、第27回木村伊兵衛写真賞を受賞。生と死、光と影といった、日常に存在する両極かつ隣り合わせの要素が、淡くやわらかい光と色調の中に浮かび上がる作品は国内外で高く評価されている。2013年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2023年にはソニーワールドフォトグラフィーアワードの特別功労賞を日本人として初めて受賞している。2022-2023年、東京オペラシティアートギャラリーと滋賀県立美術館で、大規模個展『川内倫子:M/E 球体の上 無限の連なり』を開催。2026年7月4日(土)から渋谷にて開催する『まなざしの奇跡 日本女性写真家の冒険』に参加。

■Bunkamura 概要

ひとつの空間で多様なジャンルの文化・芸術を楽しめる日本初の大型複合文化施設として1989年に開館。以来、東急グループにおける文化活動の中心的存在として、株式会社東急文化村が運営を担っています。

開館以来、新しい文化や優れた芸術に出会えるカルチャープラットフォームとして多くの文化・芸術を発信してきたBunkamuraは、オーチャードホールを除き休館中ですが、この休館期間を自由な発想で新たな挑戦をしていくチャンスととらえ、渋谷を含め東急線沿線周辺施設や東急グループ各施設などで、これまで大事にしてきた人々の心を動かす文化・芸術の創造と発信を続けています。

また、これからの担う次世代に文化をつないでいくために、新しい才能を発掘し、今後の活躍の後押しとなる場の提供と自らの可能性を発見するきっかけとなる学びや体験機会の創出にも積極的に取り組んでいます。

■渋谷区立松濤美術館 概要

渋谷区立松濤美術館は、1981年に東京都内では板橋区立美術館に次ぐ2番目の区立美術館として誕生しました。1973年に策定された渋谷区長期基本計画の中で、教育文化向上の一環として美術館の建設が決定。設計は「哲学の建築家」と称される白井晟一氏による住宅街にふさわしい設計が採用されました。絵画・彫刻をはじめとして版画・陶芸・染織・書画などあらゆる分野・時代にわたる様々な内容の特別展や公募展、サロン展を開催するほか、調査研究や教育普及活動を行っています。

■『まなざしの奇跡 日本女性写真家の冒険』概要

期間:2026年7月4日(土)~2026年8月26日(水)※会期中無休

会場:ヒカリエホール(渋谷ヒカリエ9F)

主催:Bunkamura

概要:1950年代から今日まで、表現の世界において重要な役割を果たしてきた日本の女性写真家に光を当てた書籍「I'm So Happy You Are Here」の刊行に合わせて、2024年夏アルル国際写真祭にて開催され注目を集めた展覧会はその後、世界巡回を続けています。凱旋記念となる本展は、出展作家・展示内容を拡大し、30名の女性写真家の多様なアプローチによる作品約200点を紹介するものです。

出展作家(50音順):

石内都/石川真生/今井壽恵/岩根愛/潮田登久子/岡上淑子/岡部桃/オノデラユキ/片山真理/川内倫子/小松浩子/今道子/澤田知子/志賀理江子/杉浦邦恵/多和田有希/常盤とよ子/長島有里枝/檜橋朝子/西村多美子/蜷川実花/野口里佳/野村佐紀子/原美樹子/ヒロミックス/藤岡亜弥/やなぎみわ/山沢栄子/米田知子/渡辺眸
島隆(※特別出品)